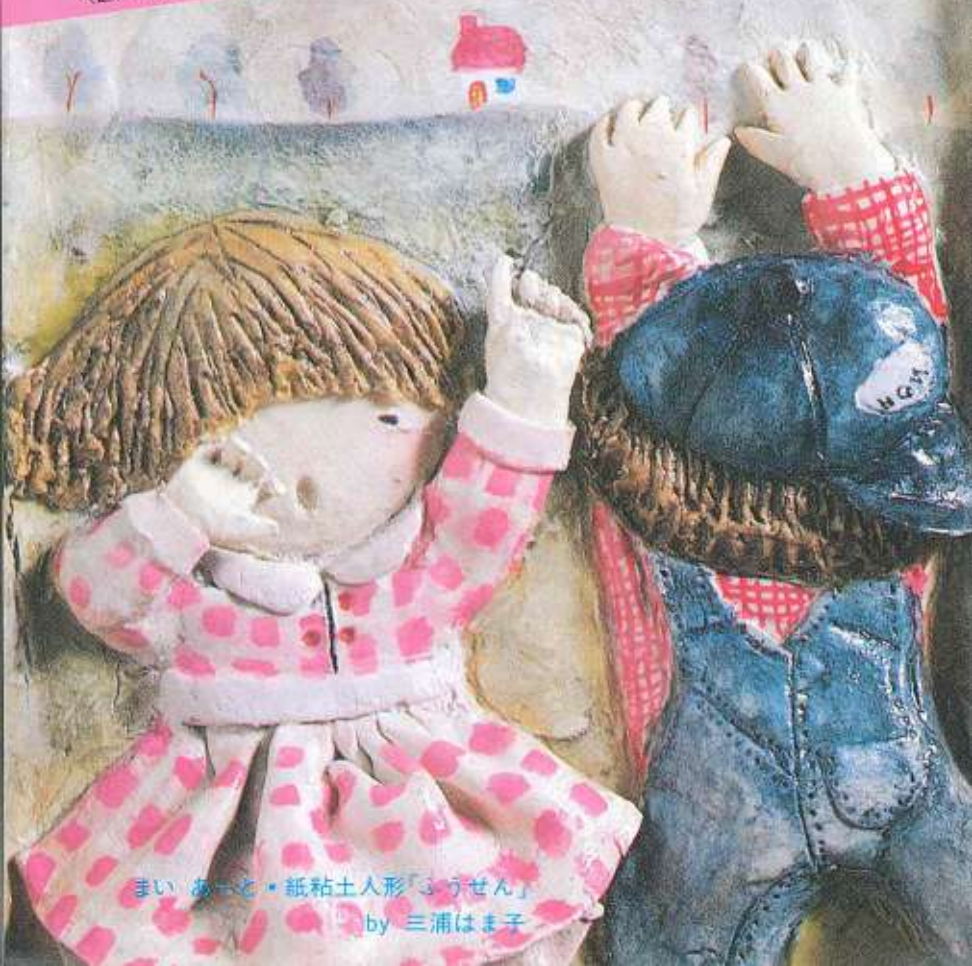
月刊
立川と語ろう　立川に生きよう
えくてびあん
5
<EKUTEBIAN-VOL.4, MAY. 1987-EKUTEBIAN>
まい　あーと・紙粘土人形「ふうせん」
by 三浦はま子

校庭の芸術

卒業記念であろうか、校庭にひっそりとたたずむ「作品」がある。歳月をへて、変色していたりすると、なおさら芸術品の価値をあげているかのように見えるものだ。もしかすると、人間の創造性は少年の頃にもっとも旺盛に働くのではなかろうか。キャンパスの「作品」から、先輩たちの声が囁く。
――学べ、遊べ、と。

◀柏小学校（石こう・彫刻）

上砂小学校▶（素焼・トーテムポール）

▼第九小学校（素焼・はにわ）

◀第十小学校（セメント・彫刻・キリン）

◀幸小学校（木製色付・トーテムポール）

◀第五小学校（素焼・トーテムポール）

▼第七小学校（素焼・トーテムポール）

▼第三小学校（モザイク壁画）

第七小学校　第三小学校　第五小学校　幸小学校　柏小学校　第九小学校　上砂小学校　第十小学校

115年目の大晦日（おおみそか）

●わが「線路」の最も長く熱い一日

寄稿・中野　明

去る3月31日は、「国鉄」最後の日とあって、わが立川人も何がしかの想いをふかくしたにちがいない。鉄道マニア・中野　明さん（柴崎町六丁目）の感慨もまた、一入（ひとしお）であった。

3月31日、火曜日、午前5時国鉄立川駅はいつもと変らぬ朝をむかえた。券売機の表示も「国鉄線」のまま。しかし、今日が最後の日であることは動かしがたい事実だ。今夜零時をもって、一一五年の歴史に終止符をうち、六つの旅客会社と貨物会社一社として新しいスタートを切る。

国鉄にかかわりのない日本人がいるだろうか。私の親しい友人のひとりは、都会のひとり暮らしに疲れきったとき、自然に足は上野駅にむいているという。プラットホームに立って、——このレールが故郷に継がっている。そう思うと、生きる勇気がわいてくるという。

1987
3月31日
さようなら
日本国有鉄道

私は、もの心ついてから27歳になる今日まですっと国鉄に魅せられ、新幹線の運転士になるのが夢であったが、健康上の理由からそれもかなわなくなり、そのことが返って鉄道への想いをつのらせた。いまでも、自分が運転席にいる夢をみることがある。

私はこの「大晦日」ともいえる国鉄最後の夜を汐留駅でむかえようとしていた。夜になって、風は冷たさを増し時おり小雪がちらついた。杉浦国鉄総裁のあいさつがあり、午前零時、総裁の手によってC五六—一六〇号機の汽笛が、夜の空に哀しく響いた。私の頬を熱いものが伝った。総裁はと見ると、そこには職務をはなれて、この鉄道をこよなく愛してきた一人の男が毅然として立っていた。本日、午後3時、国鉄本社の銘板をはずす総裁の心中はいかばかりであったろうか。

一一五年間、日本経済をささえ国民とともに走ってきた巨大な動輪が、いま、静かに止まった。

式典終了後、終電の時刻はとうに過ぎており、国鉄は式典参加者のために、臨時列車を走らせた。まさに、これこそ国鉄「最後の最後」の列車である。臨時の「八王子行」にゆられて、立川駅についたのは午前2時ころであった。

立川駅のコンコースは「JR東日本」と印刷された白地に緑、あるいは緑地に白の旗が飾られ、すでに早朝の立川駅構内とは一変していた。券売機の表示も「JR線」に改められている。

一番電車が発車するころには、東日本旅客鉄道株式会社・立川駅として新らたなよそおいを見せているにちがいない。

さらば、日本国有鉄道——。

そしてJRグループの明日に希望あれ!

ファッショナーブル ベスト4

デザイナー　森　淑さん

さる4月9日、立川市民会館において「美しき中高年のためのファッションショー」が開かれた。

主催は中高年専門のデザイナー・森　淑さん。いずれが「美しき」か、本誌記者がワイワイガヤガヤ、独断と偏見によって「厳選」されたファッショナーブル・ベスト4。

右上は森女史。彼女がベスト1だという（陰の声）がなきにしもあらずだが、判定は読者次第。

木村トシコさん

本林光代さん

関口睦子さん

佐藤信子さん

④ 立川のモニュメント 「柴崎分水取水口」市史跡。

松中橋わきの玉川上水取水口から市内を縦断する柴崎分水は、江戸中期に引かれ、長く村の人々の生活用水として使われてきた。今も農業用水として使用している家もある。松中橋横にその由来を記したボードがたてられている。

立川市と昭島市の境にかかる松中橋の西側に玉川上水から柴崎分水にわかれる取水口がある。分水は全長、8km。昭和記念公園を通り抜け、富士見町、柴崎町の住宅街を流れ、錦町から根川に合流する。この分水ができたのは元文二年（一七三七）。それより八十年前、玉川上水からは、既に砂川分水が引かれていた。「柴崎分水許願状」には、当時の柴崎村の人々が用水不足に悩んでいた様子がうかがえる。

柴崎分水は、江戸、明治、大正と時代は変わっても、そこに住む人々にとって、かけがえのない生活用水であった。飲み水に、田畑に水車の動力に、欠くことのできない水であった。今も柴崎町の旧家をたずねると、きれいな水が流れていて、そこに洗い場があったりする。

生活の中で、確固たる位置を占めていた分水が、使われなくなったのは、昭和三十年代以降という。

人々から省（かえり）みられなくなった、分水——。だが、家々の間を音もなく流れる分水を見ていると、そこだけタイムスリップしたかのような、私達に静けさと安らぎを与えてくれる。

（H・H）

漢字テスト⑯

空欄に一字挿入を試みよ。

巻□重来

一視同□

表紙は語る

「キャリアもないし、わたしの作品なんか……」と、はじめはひっ込み思案だった三浦はま子さんに、ようやく笑顔がみえてきた。

「仲間4人で、高松公民館の文化祭に出品したんです。いえ、別に先生がいたわけじゃないんですけど、1人が〔朝日カルチャーセンター〕で習ってきたものを、皆んなで工夫しながらやってみたんです。子供のネンド細工みたいなもんですよ」と、ちょっぴり謙遜ぎみなところが奥ゆかしい。

ジャンルとしては〔ロマン・ドール〕というのだそうである。紙粘土に彩色は水彩絵の具にニスをぬる。その手際のよさは、うまれもった素質か。シシュウ、編物など、これまでにもかなりのグレードでこなしてきた三浦さん。

お子さんはすでに高校生となりますます作品に没頭できる時間にめぐまれるのではないだろうか。

高松町二丁目、立川に引越してきて16年目をむかえる。もう、ほとんど『故郷』にちかいとか。

真如苑だより

春らんまんのこの頃です。暖かい日も、そうでない日も真如苑は五十一年のあいだ、立川の皆さまに育てて頂きました。一度「新しい日」を探しにお出掛けくださいませんか。お待ちしております。

■日時　5月23日(土)
　午後2時～4時

■御本尊、真如宝物館をはじめとして映画など盛りだくさんの用意がしてございます。

■立川市民（成人）に限らせて頂きます。

■お申し込みは「えくてびあん・コンパニオン」（本誌を手渡してくれた人）へ。

●漢字テスト・答●

捲土重来　一視同仁

「工・房・か・ら」

●中野さんの鉄道ばなしには、それぞれ、感じるところがあるのではなかろうか。日本人は旅行ずきといわれるが、移動のアシはやはり「汽車」が一番だ。列車に乗りこむ時の、あの軽い興奮はたとえようもない、駅弁の味は他では決してあじわえないものだ。●経営態が少し変化したというだけではすまされない、そう云いながらも「新しい線路」が延びてゆく。「未来」とはいつも、このようにして拓けてゆくものなのであろうか。●キャンパスに「芸術」ありである。母校の校庭を再訪するいい機会かもしれない。皆んなで力をあわせて作った「傑作」に、手をふれてみるだけで熱いものが胸をよぎるでありましょう。●藤房の垂れる彼方に　えくてびあん

（編集）石塚敦美　大野玲子　神山清子　鵜川理　田中恵子　原田礼子　半沢正弘　東畠弘子
（写真）天野武男　板橋一明　吉田義治
スタジオ269

月刊えくてびあん　第34号
昭和六十二年五月一日　発行
発行所　えくてびあん編集工房
東京都立川市柴崎町2-4-11
ファインビルディング　3F
電話　〇四二五(28)〇〇八二
編集人　立井啓介
発行人　沖野嘉男
印刷所　株式会社　立川印刷所

御馳走館

ごちそうかん

創る人がいて
味わう人がいる
この華麗なる
当り前の世界

(写真左)
上・驚きのピザ ¥1,200
下・小エビ、タコ、シャンピニオンのカレークリームライス添え ¥1,200

(写真下)
上・気まぐれサラダ ¥850
中・子羊のパン屋さん ¥1,500
下・オマールエビ・ブイヤーベース ¥3,400

(写真下)
上・タラコとポテトのサラダ ¥750
下・チキンの赤ぶどう酒ソース ¥1,700

サヴィニが店を構えて19年になる。味にうるさい人を相手の歴史が店の力を物語る。当初はイタリア料理店としてスタートしたが、8年前からイタリアから地中海沿岸地域と視野を広げた料理を始めメニューに深みを増した。新鮮な魚介類をたっぷり使い、オリーブの香りと工夫を凝らした料理が楽しめる。立川北口丸井裏。☎1662

地中海料理